

松支図書館だより 1月号

平成28年1月7日
熊本県立松橋支援学校図書館発行

新年おめでとうございます。

睦月。新年を、迎えて親族が集い睦み合う月という意味の「睦び月」がなまったものという説が有力です。親族が集い楽しいお正月を迎えられたことと思います。さて、日の出はいつも美しいものですが、初日の出はまた格別。早起きして、生命を育む太陽の力をもらいましたか？

新しい年がおだやかで平和な一年でありますように。また、三学期は学年の総まとめの時期です。未来に向け、夢にむかって一人一人が目標に頑張ってください。

【各学部読書状況】

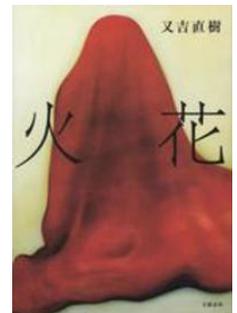
	小学部	中学部	高等部普通科	専門学科	合計
9月	99冊	71冊	24冊	53冊	247冊
10月	116冊	34冊	10冊	27冊	187冊
11月	92冊	66冊	17冊	91冊	266冊
12月	127冊	140冊	25冊	42冊	334冊

このような状況です。今年は、中学部の読書数が増えたようです。一年中で一番寒いこの時期、暖かい部屋でテレビやゲームにばかり熱中しないで静かに「本の世界」も楽しんでみませんか？

☆☆☆★ 新刊本紹介 ☆☆☆☆☆

『火花』 又吉 直樹／著

お笑い芸人二人。奇想の天才である一方で人間味溢れる神谷、彼を師と慕う後輩徳永。笑いの真髄について議論しながら、それぞれの道を歩んでいる。神谷は徳永に「俺の伝記を書け」と命令した。彼らの人生はどう変転していくのか。人間存在の根本を見つめた真摯な筆致が感動を呼ぶ！「文学界」を史上初の大増刷に導いた話題作。



『今日も嫌がらせ弁当』 ttkk(Kaori)／著

いま話題の「仕返し弁当」を高校3年間作り続け、食べ続けたシングルマザーと反抗期女子高生親子の泣き笑いお弁当エッセイ。



『ディズニー そうじの神様が教えてくれたこと』

鎌田 洋／著

仕事が夢と感動であふれる4つの物語。ウォルト・ディズニーが最も信頼を寄せた「伝説の清掃員」が教えるサービスを超越する働き方



☆☆☆ リレーエッセイNO46 ☆☆☆

「読書生活のすすめ」

教 頭

「今年こそ、三ヶ月坊主にならないぞ」とは、今年の私の目標(?)です。昨年、一昨年と元日に読書目標なるものを立てました。それは「一年間、毎週一冊、本を読む」というものです。しかし、いずれも、3月までしか続かず断念。三日坊主ならぬ、三ヶ月坊主という結果でした。「読書に数値目標が必要か？」はさておき「日々の生活に読書の習慣を」という気持ちは今年も継続していきたいと思っています。

ところで、みなさんは「海底2万マイル」という本をご存じですか？この本は、私が、読書を好きになるきっかけとなった本です。ノーチラス号という潜水艦で、世界中の海底を冒険するという話です。巨大イカと戦ったりする場面もあります。私は、八代の山村で育ちました。小学校3年の頃、山の上から不知火海を眺めることはあっても、間近に海を見ることはほとんどありませんでした。ましてや海底の世界がどうなっているのか想像もつきません。わくわくドキドキしながら、想像力をフル回転し、夢中になって読み進めたことを覚えています。いろいろな人や世界と出会えるのが、読書の魅力です。その魅力がたくさん詰まったこの本は、私に読書の楽しさを教えてくれました。その後、推理小説にはまった私は、図書室にあった明智小五郎やシャーロックホームズのシリーズを読破し、「将来は推理作家になりたい」と、少しだけ真剣に思ったりもしました。今でも、サスペンスドラマが好きなのは、この時期があったからかもしれません。さて、読書は、少年の頃と変わらず、今でも私をわくわくさせてくれます。最近、わくわくする本の中に、有川浩という作家の作品があります。「この発想はどこから生まれるのだろう？」と、彼女の作品を読むたびに感心します。その作品を少し紹介しましょう。

- 図書館戦争・・・図書館で戦争？どういうこと？と思ってしまうのですが、読んでみると「なるほど・・・。」とその世界がリアルなものに。映画化もされました。
- 三匹のおっさん・・・60歳を過ぎた、三人のおじさんたちが、正義の味方に・・・街の平和のために悪人たちを懲らしめます。テレビでドラマ化もされました。
- 県庁おもてなし課・・・高知県庁観光部に「おもてなし課」が発足。お役所仕事の県庁職員が、徐々に民間感覚を身につけ地方の活性化のために奮闘します。
- 空の中・・・高度2万メートルの空に、高い知能を持った透明な巨大生物「フェイク」の存在が明らかになります。人類の未来は・・・。

有川作品に引きつけられる理由が、二つあります。一つは、平凡な日常から奇想天外なSFの世界までシチュエーションとその展開のおもしろさです。そして、もう一つは、読み終えた後の心地よさです。この心地よさは、笑いや涙、時には戦いといった様々なストーリーの中であって、いつも根底に登場人物たちが織りなす「人としての愛」があるからではないかと思っています。一度、この心地よさを味わってみてはいかがでしょうか？

ここ数年、年相応に進む文字の見えにくさが、私の悩みでした。特に、薄暗い我が家のリビングでは、本を読む気が起こりませんでした。しかし、昨年末に照明をLEDに変えたところ、なんと明るく目に優しいことか。環境は、整いました。今年は、ノルマを課さず、自分のペースでいろいろなジャンルの読み物に挑戦したいと思っています。みなさんも、この一年自分なりの読書生活を楽しんでください。

